

最初のお話をします。

皆さんは、ふだん本を読んでいますか。私は、本が好きでありまして、以前はいろいろな本を買っていました。面白い本を読んでいますと、夢中になって時間がたつのを忘れるのであります。

しかし、最近はずいぶん忙しくて、なかなか本を読む時間がありません。そのことを友人に話したら、ある方法を紹介されました。それは、本を読まなくても内容を楽しめるというものであります。今日は、このことについてお話をしたいと思います。

友人から紹介された方法はどのようなものかといいますが、本を読み上げた音声を聞くというものであります。このようなものがあることについて、知っている人も多いのではないかと思います。若者を中心に利用する人が増えていまして、一つの読書の形として人気となっているのであります。

それでは、どのような点が魅力なのでしょう。

まず、文字を読まなくてもよいというところがあります。仕事や勉強などで目が疲れている人は多いと思います。また、本を読むのが苦手な人もいると思います。しかし、この方法でありましたら、音声を聞いているだけでいいのであります。

そして、何かほかのことをしながら聞けるといふ点も、人気の理由であります。例えば、電車に乗っているときでありますとか、家事をしながら聞くということもできるのであります。ですので、忙しくてなかなか本を読む暇がないという人でありまして、時間を効率的に使うことができるのであります。

このようなことについて、最近の流行なのかと思いましたが、そうではありません。実は何十年も前から存在していたのであります。当初の目的は、目が不自由な人でも本を楽しめるようにするということだったそうでありまして、その後、次第に利用者が増えていきまして、様々な本が音声として販売されるようになりました。今はまだ、音声となっているのは話題の本が中心のようでありまして、これからもっと増えていくことが期待されています。

先日、私も、気になっていた小説の音声を購入してみました。それは、プロの声優が朗読をしているというものであります。ただ文字を読むだけではなくて、感情を込めて読み上げられていまして、小説の世界に夢中にさせられたのであります。

私は、新たな本の楽しみ方が見つかってうれしくなりました。もちろん、紙の本を読むことも好きでありますので、状況によって使い分けたいと思います。

次の話題に入ります。

以前、ある商品について問い合わせたときのことです。その相手は、外国の会社でありました。私は、メールで質問をしましたが、予想外の返事が返ってきたのであります。そこには、担当者が休暇を取っているため、その人が戻るまで待っていてほしいということが書かれていました。私は、すぐに対応してもらえなかったと思いましたが、少し驚いたのであります。

それから数年がたちまして、日本でもこういうことが言われるようになってきました。つまり、勤務時間をきちんと定めようということでありまして。それ以外の時間には、仕事に関する連絡をしないということでもあります。私が働いている会社でも、このような動きが始まっています。

御存じのとおり、現在はスマートフォンなどが普及しまして、連絡を取ることが簡単になりました。このため、いつでも仕事の指示を出すことができます。しかし、受けるほうとしては負担が増えます。そこで、歯止めをかけるようなことでもあります。

既に、こういうことを法律で定めている国もあります。つまり、勤務時間が始まる前でありまして、終わった後には、会社からの連絡を受けなくてもよいというのであります。

ただ、そうはいいまして、実際に連絡が来ると断りにくいところがあります。特に、相手が職場の上司でありましたら、立場の違いということも考えてしまいます。ですので、むしろ連絡を送る側に対して制限をかけてほしいという声も多いようであります。具体的には、休暇を取っている間は、メールを送っても自動的に削除されるという仕組みなどあります。

一方で、こういったルールが定着しましたら、また別の心配が出てきます。それは、緊急の連絡が取りにくくなることでもあります。やはり、これについては、あらかじめ別の仕組みを用意する必要がありますと思います。

それから、最近は働き方も多様化しています。このため、勤務時間についても、人によって違っているという場合があります。そのような職場におきましては、働き方に合った給料をしっかりと払えばよいのではないかとという意見もあります。確かに、職場によってはそのほうが合理的であるかもしれません。

いずれにしても、一人一人の自由時間については、お互いに尊重し合うという姿勢が大切であります。私も、職場においてはもちろんであります。客として問い合わせるなどの場合においても、気をつけていきたいと思えます。最後のテーマに移ります。

先日、あるテレビ番組を見ましたら、野

生の動物について取り上げられていました。私は、とても興味を持ちましたので、紹介したいと思えます。

その番組で取り上げられていたのは象であります。これは、主に熱帯の森林でありますとか草原などに生息しています。そこでは、これまでたくさん象が暮らしていました。しかし、その数を大きく減らした時期があります。その原因として、乱獲が行われてきたということが挙げられます。なぜこのようなことをするのかというと、貴重な象の牙が目的であります。これは象牙と呼ばれていまして、取引が盛んに行われていたのであります。

では、象牙が取引されるのはどうしてでしょうか。これは、いろいろな国において飾りなどに使われて、とても重宝されてきたからではないかと思えます。日本におきまして、工芸品などに使われてきました。また、かつては、これを使った印鑑はとても人気が高かったのであります。しかし、日本で手に入る象牙は、そのほとんどを輸入に頼ってきました。しかも、どの国よりもたくさん輸入をしていたそうであります。象の数が減ってしまったことには、日本の責任も大きいと思えます。

その後、各国でこういったことはやめていくという流れになりました。きちんと条約を定めたのであります。これを受けまして、商業を

目的とする取引というものは原則としてできなくなりましした。これをきっかけに、多くの国で象牙を取り扱うことをやめたのであります。

日本におきまして、現在、象牙を取引しているところは少なくなりました。しかし、在庫をきちんと管理していないという問題などが指摘されています。また、原則として取引はできなくなりましたが、世界においても象牙の需要はまだあるようであります。そのため、不正に象を捕まえるということが行われているようでもあります。

生き物は、一度数が少なくなってしまうと、それを元に戻すことはとても大変であります。もしも絶滅してしまえば、取り返しがつきません。絶滅が心配されるものとしては、毛皮を目的に密猟される動物もいます。象以外にもたくさん動物が挙げられているのであります。

ですから、私たちは、これらの生き物を絶滅させないように保護する必要があります。そして、これらの生き物が将来にわたって生きていくために何ができるのかを考えなければならぬと思えます。(了)